

# 万が一事故が発生してしまったら

～ 早急な対応には、情報が大切です ～

万が一事故が発生してしまったとき、正確な情報伝達が早急なレスキューにつながります。救助の際には右ページのような情報が必要となりますので、事故が発生してしまった場合は、把握できる範囲で構いませんので、通報の際にお伝えください。

## あらかじめ氏名・年齢・住所・既往症を記入しておきましょう。

緊急の事態に備え、登山の際にはあらかじめ「氏名」「住所」「連絡先」「既往症」等を記入しておきましょう。また、メンバー同士でこれらの情報を把握しておきましょう。

## 救助・遭難の通報は、本人が110番・119番で

救助・遭難の通報は、できるだけ本人が110番・119番をしてください。家族を介して行くと、場所特定が速やかにできません。また、負傷部位や程度によっては使用する機材が替わるため、状況が最も分かる本人が直接連絡するのが最適です。

また、110番や119番には、位置情報通知システムによって、携帯電話通報者の位置情報をすばやく確認できるところも増えてきています。

携帯電話は、集落が見下ろせる稜線等で通話可能となる場合があります。通話可能場所がない場合は、最寄りの山小屋の管理者へ助けを求めてください。

## こんなときどうする？（負傷者への対応）

突然の負傷者が発生した時は、その場を動かさずに手当てすることが原則ですが、山間地では十分な手当てができない場所では、できるだけ静かに人手をかけて運びましょう。

（うつぶせから、仰向けにする時は首や背中をねじる動作が致命的になる場合があります。）  
以下のことに注意してください。

- ・ 反応を確認する。傷病者の耳元で「大丈夫ですか」などと呼びかけながら肩をたたき、反応がなければ、周囲に助けを求める。
- ・ 呼吸を確認し呼吸が無い場合は、直ちに人工呼吸・胸骨圧迫（心臓マッサージ実施）
- ・ 正常な呼吸が確認できたら、嘔吐物がのどに詰まらないように横向きに寝かせ、上側の膝を90度曲げ、後ろに倒れないようにする。

## 止血方法について

傷口から血液が、噴き出るような出血や大量に流れるような出血の場合は、早急な止血が必要です。

- ・ 傷口に清潔なガーゼやハンカチを直接当てて強く圧迫して止血する。
- ・ 包帯があれば、ガーゼやハンカチの上から巻く。あまり強く巻きすぎないように注意。
- ・ 傷口を心臓よりも高い位置にすると、より止血効果は高まる。
- ・ 傷口が泥などで汚れていたら、流水で洗い流す。
- ・ 止血帯などで強く圧迫する（関節圧迫止血法）は、神経や筋肉を痛めやすく危険なので基本的にはやめましょう。

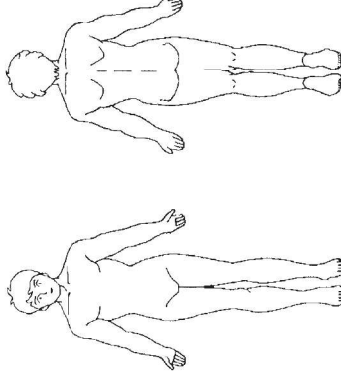
# 情報連絡用紙

第 報	年 月 日 時 分
通報日時	
通報者名	
連絡先(自宅)	
(携帯)	

発生場所	天候	位置情報 (N: E: )
事故種別 (ケガ・病気・行方不明・その他)		
事故の概要		
意識 (有・無)	出血 (有・無)	自立歩行 (可・不可)

## 負傷者の状況

（負傷している場所に  
×印をつけ、「出血」  
「骨折」等を記入）



負傷者	氏名	年齢	歳	男・女
	住所	生年月日	大・昭・平・令	年 月 日生
	連絡先 (携帯電話等)	(掛付医)		
	既往症 (持病)			
介添人	氏名	年齢	歳	男・女
	住所	生年月日	大・昭・平・令	年 月 日生
	連絡先 (携帯電話等)			